

今、子どもたちに必要なのは 握力⇒体力⇒学力?・・・人類進化の過程を大事にする子育て

表題の矢印の方向はとても大切です。これを逆にして乳幼児期から知育ばかり重視した子育てをしていると、そのしっぺ返しとして子どもの様々な問題が発生してきます。

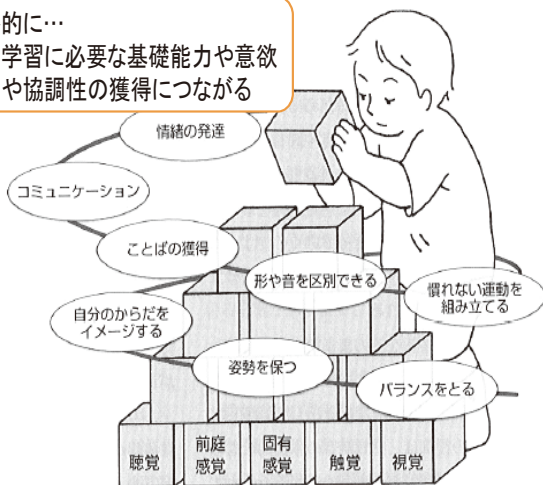
人間は、ヒト科ホモサピエンスというほ乳類です。子育てで何が大切かということはすべてそこに起因するものであろうと考えます。生まれ落ちてすぐに、母の背中にしっかりしがみつき、腕の中で母の愛を確認し、集団の中で暮らすサルのような生き方を忘れてしまったニンゲン、たくましく生き延びることが難しくなっていくのではないのでしょうか。

腕を使って体力をつくる遊び、手伝い、運動などなど、特にサルを見習うとしたらつかむ（握る）、ぶらさがる、持つ（持ち上げる）、登る、飛び降りる、などの基本的な体験が毎日できるような生育環境がベストかと思います。今はキケンだということで遊園地の遊具が少なくなりました。子どもたちが好きな登り綱やろく木、鉄棒やブランコさえなくなった学校も多いようです。鍛えなければならぬ腕（手）には軽量なスマートフォン。指先を軽く触れるだけで操作できます。全身を使ってとっくみあいのけんかをする気力もなくなりました。そして力の加減もできなくなって相手を殺してしまうという少年犯罪が起きてしまっています。

下の図は、感覚統合をテーマにした研修会資料の一部ですが、幼児期の基礎がしっかり積み上げられることがいかに大切かということがよくわかります。

感覚-運動体験がもたらすもの

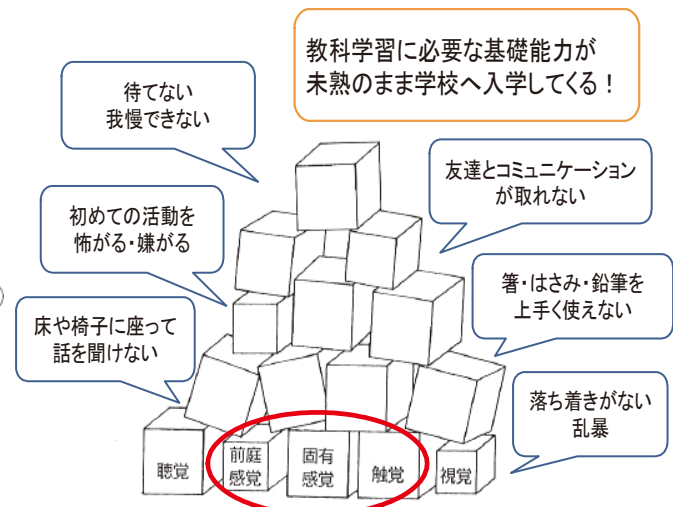
最終的に…
教科学習に必要な基礎能力や意欲
自信や協調性の獲得につながる



出典「感覚統合 Q&A」協同医書出版社

感覚-運動体験が未熟だと...

教科学習に必要な基礎能力が
未熟のまま学校へ入学してくる!



子どもができない部分だけを取りあげてイライラせず、
できない原因を考え、ブロックの基礎部分を積み直してあげましょう。
すべては経験、すべてはマネすることで子どもは学習しています。
マネしてほしい「いい現象」が、家庭や町の随所に見られることが大切です。





津南町支援員研修会

7月25日(月)文化センターにて 14:00~16:30



講師：十日町・津南地域発達支援センター「おひさま」作業療法士 高橋恭子 先生
津南町小・中学校の支援員、学習支援員全員が参加してお話をお聞きしました。

子どもの気になる行動・原因はどこに？

触覚が未熟な場合に見られる行動

- 何でもない触覚が嫌い(触覚過敏、触覚防衛)
特定の衣類・食物が苦手
刺激を避けるため逃げる、手をつなげない
- さわる感覚が鈍くなり、何でもベタベタ触る
- 身のこなしが不器用になる
見えないところで指を使うことが苦手
(首元のボタン操作、リコーダーができない)

時には訓練やリハビリも

大切なのは 乳幼児期の遊びや運動

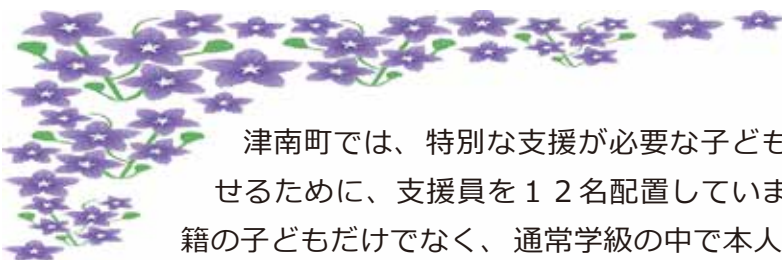
力の感覚が未熟な場合に見られる行動

- 不器用、動きがぎこちない
力の入れ方や加減がわからない
どんな順序で手足を動かすかわかりにくい
- 運動を避ける、嫌がる
- からだのパーツや位置関係がわかりにくい
自画像が未熟、狭いところをわざわざ通る
つまずきやすぐケガが多い
- 乱暴、動きを止められない

バランス感覚が未熟な場合に見られる行動

- 姿勢を保持することが苦手
筋肉の張りが弱く、ダラッとした感じ
- 視空間認知が苦手
上下・前後・左右を認識できない
- 目の動きを上手く調節できない
動いているものを見失う、探し物が苦手
文字を追いかけて読むのが苦手
- 高さや揺れを過剰に怖がるor全く平気

必要なのは幼児期の愛着



津南町では、特別な支援が必要な子どもたちの支援を充実させるために、支援員を12名配置しています。特別支援学級在籍の子どもだけでなく、通常学級の中で本人の困り感が大きく、支援が必要な子どもにも対応しています。できるだけ年齢の低いうちに原因を発見し、作業療法や生活訓練を行うことで改善されることも多いのですが、「学校に上がってみんなの中で様子を見てから・・・」と思っているうちに困り感だけがふくらんで、みんなと一緒にできないことが増えていきます。

大切なのは、すべての子どもたちが将来自立できるところに目標を据えて、最適な支援をできるだけ早くすることです。それぞれの特徴に合わせた自立のかたちをイメージしながら訓練していくことこそ、本当に「子どものため」の支援となります。困難を取り除き、手伝い、してあげることが支援ではありません。自分で「できた！」と思えるようにすることが本当の支援であることを、研修を通して再確認しました。

どんなところ？（現保健センター内に設置）

保育園入園前の乳幼児の一時預かりや、母子支援のための遊び、講話、相談、親子運動など、様々な取組を行っています。

少子化に伴い、集落と一緒に遊ばせる子どもがいない、同世代の親がいないなど、母親の孤立も子どもの育ちに大きく影響します。母子ともに多くの人とかかわり、楽しく過ごせる場の提供をするための施設なので、特に乳幼児のいるご家庭では積極的に利用してください。

年々、利用者増加！

核家族化が進んでいること、祖父母も働いている家庭が増えたことなど、支援センターの必要性から利用者も増えています。

子どもは母親一人ではなく、社会で育てる風土をつくることが求められています。

子育て支援センターはその実現の入り口なのです。祖父母の皆さん、父親の皆さんも子どもを連れて出かけてみてはいかがでしょうか？



「つながっぺ広場」一日平均 利用者数の推移

25年度	23.8人
26年度	24.5人
27年度	29.0人
28年度	29.4人（8月現在）

親子で年間延べ約7,000人が利用。
毎日の「つながっぺ広場」の他にも土曜
つながっぺ、移動つながっぺ、お楽しみ
イベントなどがあります。

今後の方向

現在は保健センターの間借り状態で運営しているため、新たな居場所をどうしていったらよいか町でも構想を練っているところです。

0才児と一緒に部屋では2才児が思いっきり走り回れない、屋外遊びができないなど、利用者が増えて手狭になったことで環境づくりにも工夫が必要になりました。

毎年、アンケートを実施しながら、改善を図っていきたいと思います。

親子遊びと父母の学びの場の提供

ハンカチ一枚でも子どもを遊ばせられるのよ

母親のおだやかな声や表情が一番大事！



9月7日(水) 津南みらい教室スナップ集



「ぼくらが津南の未来をつくる」

河岸段丘を背に記念撮影



中学1年生と6年生の混合チームで
マウンテンパークまでウォークラリー

参加のスタッフや先生方も盛り上がっています

小・中連携の取組、みらい教室における子どもたちの交流も定着しました。町内すべての6年生が交流し、中学1年生と知り合いになって入学することを目指しています。

あいさつ運動の広報無線について

育ネットつなん地域部会からのお知らせ

10月から「あいさつの日」の前に、夕方の広報無線で子どもたちの声をお伝えします。町ぐるみの子育て、町ぐるみのあいさつ運動を進めていくために、子どもたちの生の声で町民のみなさんに呼びかけます。



子ども若者育成支援関係相談窓口

親も地域も、子どもがしっかり自立して生活ができるようにすることが共通の目標でなければなりません。そのために支援が必要な子どもには早く気づき、早く対応してあげることが大切です。声を掛け合いましょう。

- つなんにこやかルーム相談専用電話・・・765-4995
- 教育委員会子育て教育班・・・765-3118
- 福祉保健課健康班・・・765-3114

